【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成23年3月17日(2011.3.17)

【公表番号】特表2010-500889(P2010-500889A)
【公表日】平成22年1月14日(2010.1.14)
【年通号数】公開・登録公報2010-002
【出願番号】特願2009-516894(P2009-516894)
【国際特許分類】
　Ａ６１Ｌ　31/00　　(2006.01)
　Ａ６１Ｆ　 2/82　　(2006.01)
　Ａ６１Ｌ　29/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
　Ａ６１Ｌ　31/00　　　Ｂ
　Ａ６１Ｍ　29/02
　Ａ６１Ｌ　31/00　　　Ｐ
　Ａ６１Ｌ　31/00　　　Ｃ
　Ａ６１Ｌ　31/00　　　Ｔ
　Ａ６１Ｌ　31/00　　　Ｚ
　Ａ６１Ｌ　29/00　　　Ｗ

【手続補正書】
【提出日】平成23年1月31日(2011.1.31)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　乳酸およびグリコール酸のコポリマー、ポリラクチド、ポリグリコリド、ポリビニルピロリドン、ポリプロピレングリコール、ポリエチレングリコール、またはポリビニルアルコールおよびこれらのポリマーの誘導体もしくは組み合わせの少なくとも１つのポリマー層、ならびにラパマイシンでコーティングされた、ステント。
【請求項２】
　ラパマイシンが、再狭窄予防の必要性に時間適合および用量適合する溶出グラフ内の少なくとも２つの増加段階によって特徴付けられる１つのポリマーもしくはポリマー誘導体もしくは均一混合物を通って連続的に溶出される、請求項１に記載のステント。
【請求項３】
　ラパマイシンの前記溶出グラフが２つの傾斜を有する、請求項１または２に記載のステント。
【請求項４】
　ラパマイシンを含むＰＬＧＡのポリマー層でコーティングされた、請求項１から３のいずれかに記載のステント。
【請求項５】
　前記ステントが、血液適合性ポリマーの最下コーティングを有する、請求項１から４のいずれかに記載のステント。
【請求項６】
　前記血液適合性コーティングが、前記ステントの表面に共有結合されている、請求項５に記載のステント。

【請求項７】
ラパマイシンが、第２の活性薬剤と組み合わされて存在する、請求項１から６のいずれかに記載のステント。
【請求項８】
前記第２の活性薬剤が、タクロリムス、パクリタキセルおよびその誘導体、ファスジル（登録商標）、ビトロネクチンレセプターアンタゴニスト、サリドマイド、シクロスポリンＡ、テルグリド、リスリド、セレコキシブを含む群から選択される、請求項７に記載のステント。
【請求項９】
ラパマイシンが、０．００１～１０ｍｇ／ｃｍ^{2}・ステント表面の濃度を有する、請求項１から８のいずれかに記載のステント。
【請求項１０】
ステント支柱だけではなくステント支柱間の隙間もまた、ラパマイシンが存在するポリマーでコーティングされる、請求項１から９のいずれかに記載のステント。
【請求項１１】
前記ステントが、スプレー法、ディッピング法、ブラッシング法、ピペッティング法、エレクトロスピニング法、シャボン玉法、プラズマ法、および／またはレーザー技術によって、連続的または逐次的にコーティングされる、請求項１から１０のいずれかに記載のステント。